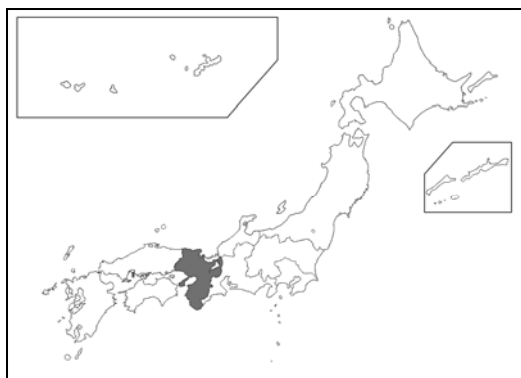


## (7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

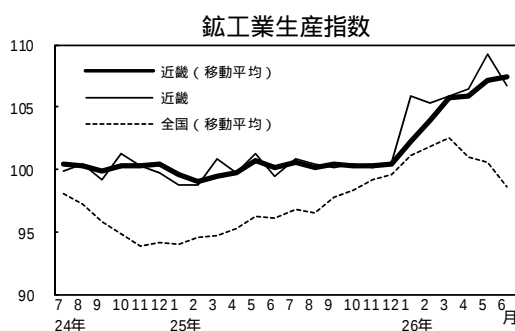
### 前回調査からの主要変更点

|       | 前回(平成26年5月)                                         | 今回(平成26年8月)                                |   |
|-------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------|---|
| 景況判断  | 持ち直し基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる | 緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある | ↑ |
| 鉱工業生産 | 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる              | 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、持ち直しの動きがみられる    | ↑ |
| 個人消費  | 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる              | 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる  | ↑ |
| 住宅建設  | おおむね横ばい                                             | 減少                                         | ↓ |

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、持ち直しの動きがみられる。

4～6月期には、はん用・生産用・業務用機械は、ガスタービンでまとまった出荷があったことやその反動減等があり、横ばい傾向で推移した。化学は、工場の定期修理で無水酢酸が減少したこと等から減少した。電気機械は、セパレート型エアコンやリチウムイオン蓄電池等で生産が減少したこと等から減少した。輸送機械は、高水準ながら生産が減少したこと等から減少した。食料品・たばこは、工場の製造ラインの増設により飲料で増加したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

|               | 付加価値ウェイト | 生産    |       |       |       |       |
|---------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
|               |          | 1～3月期 | 4～6月期 | 4月    | 5月    | 6月    |
| はん用・生産用・業務用機械 | 17.4     | 1.1   | ▲ 0.1 | 0.6   | ▲ 4.4 | ▲ 3.1 |
| 化学            | 16.8     | 17.0  | ▲ 3.9 | ▲ 4.4 | 4.3   | ▲ 5.7 |
| 電気機械          | 9.0      | 12.9  | ▲ 1.1 | 2.4   | ▲ 1.3 | ▲ 4.2 |
| 輸送機械          | 8.4      | 2.3   | ▲ 0.5 | 3.2   | 3.4   | ▲ 0.5 |
| 食料品・たばこ       | 6.7      | 9.5   | 24.9  | 3.4   | 28.5  | 0.2   |
| 鉱工業           | 100.0    | 5.3   | 1.7   | 0.6   | 2.5   | ▲ 2.3 |

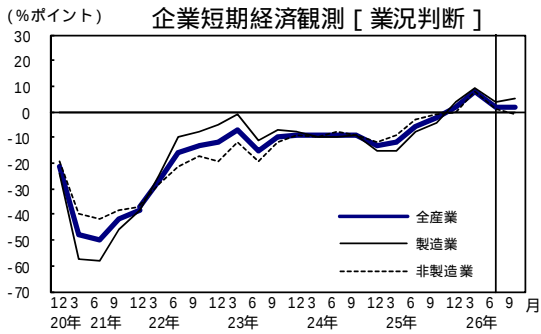
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

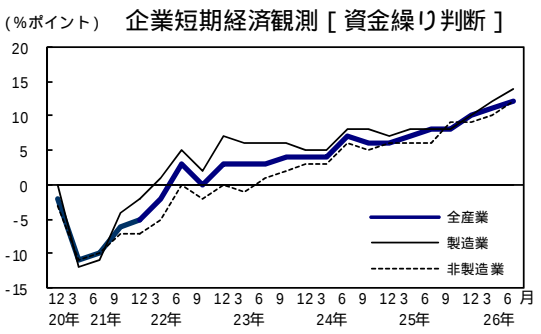
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

( 2 ) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

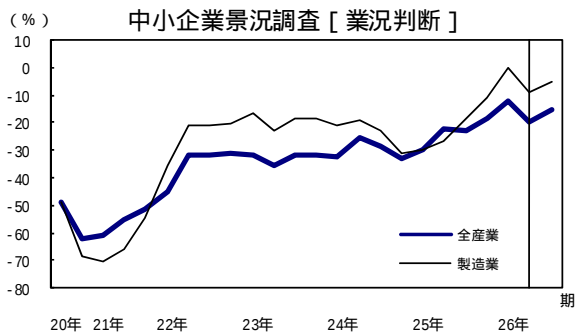
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



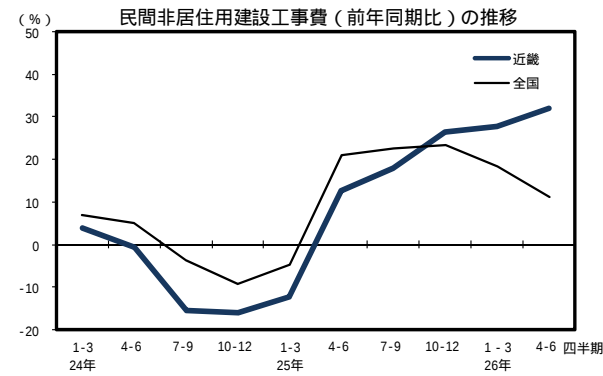
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]  
「4～5月は消費税率引上げの影響で需要が落ち込んだが、今月は前年を上回る荷動きとなるなど、落ち込みは改善されてきている(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

( 3 ) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ( 6月調査 ) ]

|      | ( 前年度比、 % )   |               |
|------|---------------|---------------|
|      | 25年度実績        | 26年度見通        |
| 全産業  | 0.3 ( ▲4.6 )  | 13.2 ( 5.5 )  |
| 製造業  | ▲5.1 ( ▲7.6 ) | 10.4 ( ▲0.1 ) |
| 非製造業 | 3.9 ( ▲2.8 )  | 14.9 ( 9.0 )  |

(備考)( ) は前回 ( 3月 ) 調査比修正率。

## (7) 近畿

### 2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数(RDEI(消費))

4月は前月比14.1%減、5月は同2.2%増、6月は同0.2%減となった。

大型小売店販売額

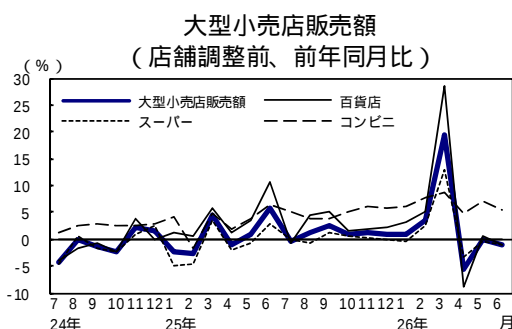
百貨店は、4月は、駆け込み需要の大きかった商品群が反動も大きく、特選・宝飾品・呉服・家具等が苦戦したこと等から前年を下回った。5月は、気温高で日焼け防止の帽子や手袋などのシーズン雑貨を中心に売上げが伸びたことや、宝飾品等の高額品のマイナス幅が縮小傾向だったこと等から前年を上回った。6月は、気温が上がらず、夏物が苦戦したこと等から前年を下回った。

スーパーは、調理家電、日用消耗品、化粧品等で駆け込み需要の反動がみられたことに加え、大きな気温上昇もなく全般的に夏物商品が伸びなかったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、50.3となり前月より3.5ポイント上昇した。

「エアコンを中心に夏物商品の販売量が例年並みに戻るなど、ボーナス増の影響で販売量の増加につながっている(家電量販店)」など、「やや良くなる」とする回答が増加した。

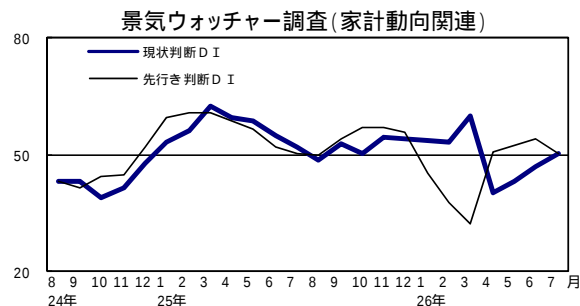
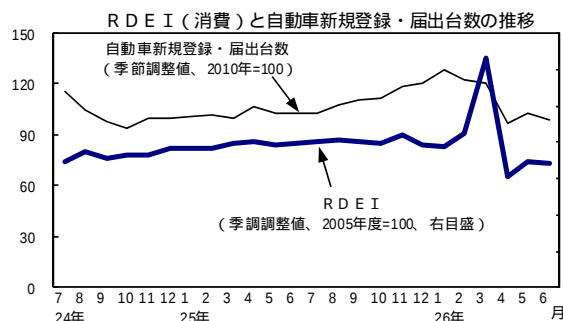


|             | 26年4-6月 | 26年4月  | 5月    | 6月    |
|-------------|---------|--------|-------|-------|
| RDEI(消費*1)  | ▲ 6.9   | ▲ 14.1 | 2.2   | ▲ 0.2 |
| 大型小売店(*2)   | ▲ 2.1   | ▲ 5.5  | 0.0   | ▲ 1.0 |
| 百貨店(*2)     | ▲ 3.0   | ▲ 8.8  | 0.6   | ▲ 0.9 |
| スーパー(*2)    | ▲ 1.6   | ▲ 3.4  | ▲ 0.4 | ▲ 1.1 |
| コンビニ(*2)    | 5.8     | 4.9    | 7.1   | 5.5   |
| 乗用車(*3)     | ▲ 4.4   | ▲ 9.4  | ▲ 2.6 | ▲ 1.8 |
| (季節調整値)(*3) | ▲ 19.5  | ▲ 19.5 | 5.7   | ▲ 3.2 |

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

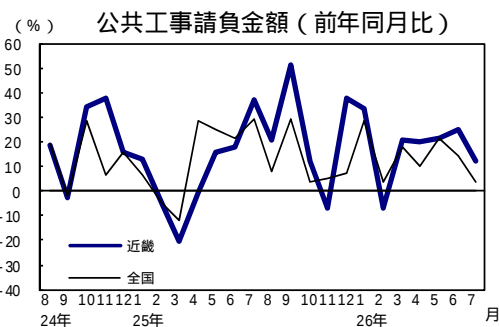
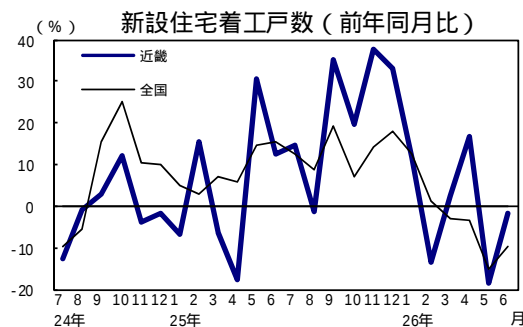
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%) )



(2) 住宅建設は減少している。

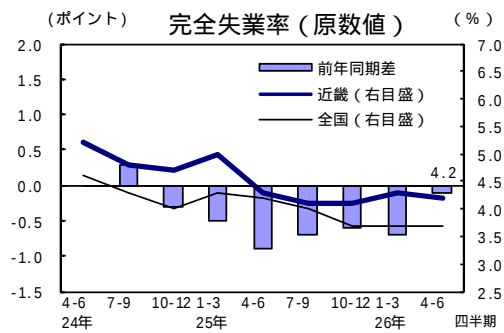
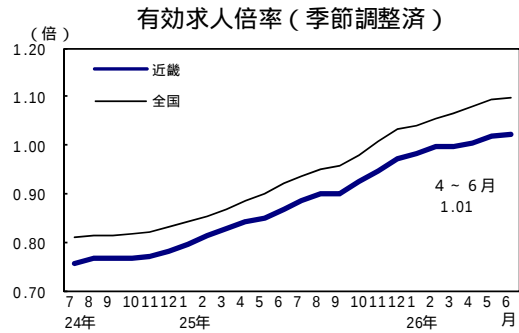
貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

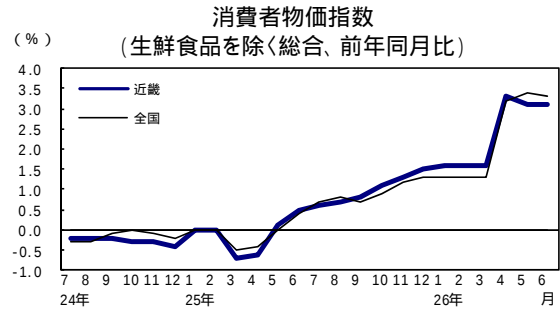


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]  
「様々な業種で増員のオーダーが増えるなど、業務量の増加で人員を増やす企業が多くみられる。今後の見通しも長期的に改善すると考えている企業が多い（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額はおおむね横ばいとなっている。
- (3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

|       | (件、億円、%) |        |         |       |       |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
|       | 25年7-9月  | 10-12月 | 26年1-3月 | 4-6月  | 26年7月 |
| 倒産件数  | 649      | 651    | 612     | 670   | 218   |
| (前年比) | ▲10.9    | ▲14.3  | ▲9.9    | ▲6.3  | ▲0.5  |
| 負債総額  | 1,321    | 905    | 652     | 1,035 | 239   |
| (前年比) | ▲71.7    | ▲21.1  | ▲7.7    | ▲1.0  | ▲15.5 |



- 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]  
<現状>  
・化粧品の上売が順調に回復している。4月は前年比70%、5月は80%、6月は90%であったが、店舗によってはほぼ前年並みに上売が戻っており、基礎化粧品などのよく使う商品の上売は完全に回復している。アクセサリーなどの装飾品関連も順調に回復し、消費税増税の影響はほぼなくなっている（百貨店）  
<先行き>  
・梅雨明けが遅く、夏の期間が短かった影響が出ている。また、エルニーニョ現象の影響で、今冬の天候が予測しにくい（家電量販店）

